



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1998年4月1日発行 第15号 発行・横浜スペイン交流協会事務局



▲ 2月9日／セビリア市、プリンシベス公園にて。セビリア市の関係者と共に植樹する、下山会長。

長い間の苦勞が実って、ようやくこの日を迎えた。参加者全員の心に、熱いものがこみあげた。

▶「友好親善の旅」に参加した会員、一般参加者みんなが、自らの手でさくらの花咲く日を夢みて、植樹した。





◀ 2月9日～2月10日／セビリア、エル・モンテ財団にて。2日間3回にわたり「ヨコハマデー」を開催。

切り紙、折り紙、押し花を通してセビリア市民と交流。「友好親善の旅」参加者全員が急遽講師となって大活躍。



▼セビリア市より「友好の証」として与えられたメダル。



▲横浜ズーミングクラブの協力を得て、横浜市の紹介写真を展示。「ヨコハマデー」に参加したセビリア市民全員が興味深く鑑賞した。



▲ 2月12日／ロンダ市、パラドール・デ・ロンダにて。ロンダ市でもセビリア市同様、「ヨコハマデー」を開催。ロンダ市側では、文化教室の指導者が参加。熱心に日本の文化を学習してくれた。



▲ 2月11日／ロンダ市、アラメダ公園にて。
植樹のセレモニーが終わり、ロンダ市副市長と握手をする下山会長。
ロンダ市と、当協会とが深い信頼と友好に結ばれた。

▼ 2月12日／ロンダ市／パラドール・デ・ロンダにて。ラサンタ文化担当助役より「友好の証」として、古代の剣のレプリカを受ける下山会長。



▼ 2月15日／マドリード市、レストラン花友にて。坂本駐西日本大使は、当協会の活動に全面的にご協力をしてくださった。
ゼスチャーたっぷりに三崎夫妻との話もはずむ。



*** 第3回「さくら植樹」スペイン友好親善の旅

市民交流の花、見事に花咲く

横浜スペイン交流協会・旅行委員会 ***

第1回さくら植樹は、ロンダ市在住の故春田美樹画伯から、日西親善のために「日本の桜を植樹したい」との強い願望に応え、1993年3月、桜の苗木200本をロンダ市に贈呈した。

第2回さくら植樹は、宮城スペイン協会と共催で800本の苗木を用意したが、1995年EU(ヨーロッパ連合)が桜を植物輸入禁止品目に指定したために、日本から桜の苗木を直送し植樹することを断念し、1995年11月セビリア市とコリア・デル・リオ市にスペインのサクランボの苗木を台木として、急遽パンプローナから取り寄せたソメイヨシノを接ぎ木し、これを仮植樹した。

第3回さくら植樹の今回もEUの輸入方針に変更はなく、このためスペイン国内でサクランボの苗木を200本用意し、これに桜を接ぎ木し、ロンダ市に50本、また宮城スペイン協会がコリア・デル・リオ市に50本、セビリア市には横浜スペイン交流協会と宮城スペイン協会が共同で100本を贈呈した。

今回の「さくら植樹」スペイン友好親善の旅では、市民交流ヨコハマデーを4回実施し、スペインの人たち100余名の方々と触れ合い、楽しく交流することができた。

ヨコハマデーの内容については、このイベントでそれぞれの講師を務めた方々からの報告を参照していただきたい。

なお、ロンダ市では下山会長夫妻、池本理事および伴野会員夫妻の5名で、1993年に植樹した桜の育成状況を訪ね歩き、数十本の桜がアンダルシアの過酷な自然状況の中で順調に根付いていることを確認した。

REPÚBLICA DE ESPAÑA GOBIERNO DE ANDALUCÍA SECRETARÍA DE CULTURA 12/2/92		PATRONATO GENERAL SOCIO-CULTURAL Y DE TURISMO DE RONDA 12/2/92	
Patronato Sociocultural y de Turismo EXCMO. AYUNTAMIENTO DE RONDA			
SR. SADAKI SHIMOMURA PRESIDENTE DE LA ASOCIACIÓN DE INTERCAMBIO ENTRE TOHOKU Y ESPAÑA Estimado amigo: En primer lugar queremos agradecer a la Asociación que preside las dos visitas que ha efectuado a nuestra ciudad. La primera, hace cinco años, nos permitió conocer parte de vuestra cultura tradicional y, sobre todo, promover la plantación de un centenar de cerezos japoneses que han servido para embellecer Ronda. En la que estáis realizando a lo largo de estos días no sólo se ha repetido la experiencia de los cerezos sino que las clases de papercraft y de flores secas que habéis impartido a nuestras amistades socioculturales van a servir para que se inicie en sus técnicas el numeroso alumnado que tenemos en las distintas parroquias y ancías, compuesto, fundamentalmente, por mujeres y niñas. Ello nos hace reflexionar sobre la necesidad de corresponder a tantas gentes y formular propuestas que sirvan para alinear y formalizar los lazos de unión entre nuestros dos pueblos. En base a lo expuesto nos sentiríamos muy honrados si una delegación vuestra viniese a nuestra ciudad en el próximo mes de noviembre, en la primera sesión, fechas en las que se celebran la Feria y Fiestas de Pedro Romero, las más importantes de Ronda y de las más destacadas de Andalucía. Ello serviría para que conociérais en profundidad aspectos principales de la cultura popular andaluza. En nuestra intención ofrecer un homenaje a la persona que propició el inicio de estas relaciones, el pintor Miki Nave, de tal manera que se instalará una placa de piedra en cuyo interior se guardará sus cenizas, haciéndolo coincidir con vuestra visita caso de confirmarse. Para poder enviar vuestra delegación dentro de los muchos estos protocolarios que se celebran en Ronda durante las fiestas, nos parece que el número máximo debería ser de seis personas. Para la Muestra 2 Teléfono: Casa de Cultura (91) 287 21 42 - 287 21 43 de 9h. a 18h. - Móvil 287 21 41 (B. Fax 287 21 42) 29400 RONDA (Málaga)			
ANTONIO LASANTA GUTIÉRREZ, Teniente de Alcalde delegado de Cultura del EXCMO. Ayuntamiento de Ronda, CERTIFICA, que la segada de bronce que porta el Sr. SADAKI SHIMOMURA, Presidente de la Asociación de Intercambio entre Tohoku y España, es una reproducción SIN FINES VALOR ARQUEOLÓGICO que este Ayuntamiento ha regalado a la referida Asociación con motivo del intercambio cultural que se ha celebrado en la ciudad de Ronda a lo largo de los días 11 y 12 de febrero de 1992. Y para que así conste a todos los efectos firmo el presente documento en Ronda a doce de febrero de mil novecientos noventa y ocho.  Patronato Sociocultural y de Turismo Excmo. Ayuntamiento de Ronda Para la Muestra 3 Teléfono: Casa de Cultura (91) 287 21 42 - 287 21 43 de 9h. a 18h. - Móvil 287 21 41 (B. Fax 287 21 42) 29400 RONDA (Málaga)			

▲ ロンダ市よりの招待状原文 (訳文は6ページ)

◎ 旅行内容 ◎

- 1月17日（土） 旅行参加者24名の結団式をJTB団体旅行横浜支店にて開催。
- 2月 4日（水） スケジュール調整のため先発隊として、中村瑛子常務理事と宮崎紗伎理事が成田から出発。
- 2月 8日（日） 旅行団24名、成田空港から日本航空にてロンドン経由マドリード着。ホテルカステリャーナ・インターコンチネンタル泊。
- 2月 9日（月） マドリードから新幹線にてセビリア着。
宮城スペイン協会と合流し、トリアーナ地区のプリンシペス公園にて桜植樹式のあと、セビリア市庁舎に、プスタマンテ市長を表敬訪問。夕刻、市民交流イベント第1回ヨコハマデーを（財）エル・モンテにて開催。参加者25名。
宮城スペイン協会と夕食会。
ホテル・オキシデンタル・ポルタコエリ泊。
- 2月10日（火） 午前中、第2回ヨコハマデーを（財）エル・モンテにて開催。参加者21名。
夕刻、第3回ヨコハマデーを開催。参加者28名。
（財）エル・モンテから横浜スペイン交流協会に感謝状をいただく。
夜、ドス・ガジョスにてフラメンコ鑑賞（希望者のみ）
ホテル・オキシデンタル・ポルタコエリ泊。
- 2月11日（水） バスにてセビリアからロンダ着。
ロンダ市庁舎表敬訪問のあと、ロンダ市文化会館近くのアラメダ公園にて、さくら植樹式。午後、ロンダ市職員の案内により市内観光。
ロンダ市幹部招待夕食会。
パラドール・デ・ロンダ泊。
- 2月12日（木） 午前中、市民交流イベント第4回ヨコハマデーをパラドール・デ・ロンダのサロンにて開催。参加者27名。ロンダ市主催の立食パーティーに招かれる。ロンダ市より友好の証として、古代の刀剣のレプリカをいただく。ペドロ・ロメロ祭への招待を受ける。
横浜ズーミング倶楽部の写真を、ロンダ市文化会館ラサンタ館長に贈呈。
ピレタの洞窟見学（希望者のみ）
パラドール・デ・ロンダ泊。
- 2月13日（金） ロンダからバスにてコスタ・デル・ソルを経てマラガ着。着後自由行動。
パラドール・デ・ヒブラロファロ泊。
- 2月14日（土） バスにてグラナダ観光。（希望者のみ）
パラドール・デ・ヒブラロファロ泊。
- 2月15日（日） マラガからイベリア航空にてマドリード着。
夕刻、駐西日本大使公邸を表敬訪問。夜、スペインさくら植樹記念夕食会を、レストラン花友にて開催し、坂本大使ご夫妻、松井一等書記官、JTBマドリッド支店宇留野支店長および訪問団全員を招待。
ホテルカステリャーナ・インターコンチネンタル泊。
- 2月16日（月） マドリードからKLM航空にてアムステルダム、乗り継いで日本航空にて成田へ向かう。
- 2月17日（火） 成田着、通関後、解散。全員無事帰国。

終わりに、今回の訪問団のコーディネートをお引き受けいただいたセビリア在住の太田清壽氏および、通訳のハビエル・サンチェス・アントン氏に対し、お礼申し上げます。

また、今回の旅行団の一員としてヨコハマデーにご協力いただいた当協会の会員でない方々にも、あわせてお礼申し上げます。

ロンダ市からの招待状訳文

ロンダ市役所社会文化観光協会

横浜スペイン交流協会会長

下山貞明殿

親愛なる友へ

まず最初に貴協会が当地をこれまで2度訪問して下さいたことに、感謝の意を表したいと思います。5年前の最初の訪問の際には、貴国の伝統文化の一端を紹介して下さい、その上、このロンダをより美しくすることに貢献した日本桜100本を植樹して下さいました。つい先日の第2回目の訪問の際には、桜を再び植樹して下さいたのみならず、私どもの社会文化教室の指導者達に折り紙と押し花を講習して下さいました。これをきっかけに、様々な地区や村に住む、女性と年配者が多数参加する社会文化教室の生徒たちが、この技法を習い始めることになるでしょう。

私たち2つの国民を結ぶ絆が、更に一段と確かで具体的なものになるのに役立つ、今回のこの様に心のこもった催しに、私どもがお返しをする必要があると思います。

以上の事をかんがみ、来る9月の第1週に開催される、ロンダで最も重要で、アンダルシア地方で最も有名なお祭りであるペドロ・ロメロ祭りに、貴協会の代表団がおいで下さいれば大変名誉なことと思います。このことは、アンダルシアの民衆文化の主要な局面を深く皆様に知っていただく為に役立つことでしょう。私どもは、この友好関係の発端となって下さった、春田美樹画伯に敬意を表したいと考えており、内部に画伯の遺骨を納めた石塔を建立する計画で、双方の確認のもと、貴協会の当地訪問の折りにこれを執り行いたいと思います。この祭りの期間ロンダで開催される数々の儀式に、貴協会の代表団にもご出席頂きたいと思います。なお、参加人数は6人までとさせていただきます。

又横浜市の行政上の分担から、姉妹都市提携案が容易に進まないことは承知してはおりますが貴協会がこれに関連した正式な交渉を確立するために都合が良いと思われる段取りをしていただけないでしょうか。

いかなる場合も、最も重要なのはロンダ市役所と横浜スペイン交流協会の間で、現在の関係を保って行くことであり、そして又ふさわしい方法でこの関係を増進して行くことだと思います。

心から友情を込めご挨拶申し上げます

フェルナンド・アントニオ・ラサンタ・グティエレス
ロンダ市役所文化担当助役

☆☆☆ 市民とのふれあい・・・ヨコハマデーを開催 ☆☆☆☆☆

今回の植樹旅行では、4回にわたる「ヨコハマデー」を開催いたしました。
これは当協会の「さくら植樹」とならぶ目的である「市民レベルの交流」のために行われたものです。
いずれの講座もスペインの人々にとって初めての体験で、とても熱心に聞き入っていたようです。そんな様子をご紹介します。

～押し花～

ヨコハマデー押し花講座に参加して

石川 美知子

今回の交流行事ヨコハマデーに参加してよかったのは、市民レベルの交流が出来たことです。最初の日初めてのこともあり、少々混乱もありましたが、回を重ねるうちスムーズになり、余裕さえ出てきました。そこで押し花を指導して下さった丸山稚香子先生にご感想を伺いましたので、御紹介致します。

「私自身スペインという初めての地で、人との温かいふれあいと楽しい時間を持て幸せでした。今回の受講者の特徴は子供の様な明るい瞳と大きな笑い声をもった積極的な方々ばかりだったことで、どの方も私には好ましく思えます。会員の方と受講者の間にある押し花はまるで花束を捧げている様にも見え、華やかなアットホームな明るい雰囲気となっていました。そして私自身役にたてたかしらと思えたことは植樹という目的に、まだ芽吹かない桜の花を受講者に写真と共に説明出来たことです。驚かれたお顔、納得されたお顔を拝見し、横浜スペイン交流協会の目的に近づけた様なホッとした気持ちになりました」

丸山先生には私達の目的の為に協力していただき、誠心誠意ご指導下さり、押し花を通して交流の輪が広がったようです。本当にありがとうございました。又今回特に記念品として持って参りました立派な桜の花の額の手配と、額の制作にご尽力戴きましたことにも、丸山先生とコロネットの皆様に重ねて感謝申し上げます。



～折り紙～

心を捕らえる折り紙

中村 瑛子



折り紙をスペインで紹介するに当たり先ずしなければならなかったのは、誰が見てもすぐそれと分かるもの、かわいくて美しいもの、出来上がったものの意外性、の条件を満たす折り紙を探すことでした。折り紙を教室で教えるだけでなく、展示をして日本の和紙文化の一部も紹介することにしました。和紙会社の社長に相談に行ったり、外国の作家も含め折り紙作家の本を数冊買い込んで探しました。

その効果は最初、セビリアで事前打合せに行った財団エルモンテの担当者、グアダルペさんに作品を見せ、なおかつ目の前で折った時の彼女の狂喜振りで明らかとなりました。3 教室とも生徒は第 3 世代のシニアの方々でしたが、旅行に参加した方々に手伝ってもらいながら出来上がった作品に皆大喜びでした。また、ロンダの打合せでお会いしたラサンタ文化担当助役の前で 1 分位で指輪や蝶を折ってプレゼントしたら、「インクレイブル」(信じられない)と叫ばれ、一緒に行った宮崎さんの流暢なスペイン語とともにその後は彼の即座の指示ですべてことはとんとん拍子で運びました。彼をして最後の日に、自国の文化だけが最高と思っているものは田舎者である、と言わせたほど今回の文化紹介教室は大成功でした。

～ 切り紙 ～

切り紙での交流

伴野 芳信

セビリア、ロンダともに皆さん熱心で、楽しむ中でも覚えようという気持ちが強く、折った紙を切るように指示したら切りたくないと言いだしたので、理由を聞いてみると折り方が分からなくなってしまうからだそうです。

はじめに折って完成させた切った桜の花を持っているので、そのとおりにしましたが、でも、ものすごい熱意を感じました。個人的に直接指導していただいたおかげです。皆様のお顔も輝いていました。



第3回さくら植樹旅行参加者の声

☆☆☆ 私のスペインさくら植樹旅行 ☆☆☆☆☆

第3回さくら植樹旅行には会員・非会員あわせて24人の方が参加されました。フリープランの旅行ではありませんし、またわずか10日間という短い間でしたが、どのような旅行であったのでしょうか。感想を伺ってみました。

スペインに旅して

岡田 重男



会長をはじめ総勢24名によるセビリア・ロンダでのさくら植樹、セビリア市庁舎見学、ロンダの先生達との交流、ロンダ・マラガのパラドールからの絶景な眺め、在マドリッド日本大使公邸訪問等とても楽しく、千変万化する世界を夢うつつ見ている様なあつという間の10日間でした。未だ時差ボケも完全に癒えず、写真の出来上がりを見て、更なる記憶が甦ることでしょう。

特に面白かったのは西国最終直前15日(日)マドリッドの静寂な筈のプラド美術館が土日無料解放日に当たり騒々しい中、世界的名画の数々を得した気持ちで堪能した後、期待のラストロ市へ偶々行くことが出来ました。

先ず、美術館内監視人に俺が…(Oiga)というとな誰が(Diga)と日本語が通じたようです。続いて覚束ない片言でベラスケスの絵の所在を聞き乍ら、ラストロ市最終時刻は何時かと尋ねると14時でもう終り、当然間に合わない。次いで念の為確かめるべく、ムリリョ玄関側3人組門番に聞き15時と一安心。取り敢えず美術館前からタクシーに乗り込み、行き先を告げ再度終了時刻を聞くと16時、益々余裕。現場に着き初めて西国人の三人三様の返答が正しいことが解りました。

ラストロ市での露店々仕舞い時間は店により実際14、15、16時と巾があったのです。店々を覗き売子とやり取りしているといつの間にか周りに人垣が出来、珍しさと危険さが同居したまま、懐中のものを確認し、気温20度近くあった為流れる汗を拭い、道に溢れごった返す人をかき分け回りました。正に喧噪、スリルの入り混じった処で、とても数時間ではきれず、次の機会には朝からここで値引きさせた掘り出し物をドッサリ抱えて帰国したいものです。

一方、脇道にそれますが、仄聞するところ、市の経営で場所代を払えば我々も店を構えられるとか、研究の余地がありそうです。

スペインさくら植樹の旅の中で

中 村 哲

セビリアの公園に無事3本の桜の苗木を植え、次に訪れたセビリア市庁舎は、何世紀も前に建てられた部分が残されていて、興味深く見学した。

又、ローマ時代を想わせる花綱や、天使が戯れている壁画もあり、フレスコ画かな…と見とれた。

新宿の都庁舎とは何と違うことだろう。世界中からセビリア市に贈られたものを飾ってある部屋で、「このお皿、逆さま!」と思わず日本からの贈り物を見て言ってしまった。でも、こんなにも大事にされて幸せなこと。

ナランホがたわわに実る街路樹も、青空に映えて、なんとも良い気分だ。サンタクルス街の真夜中に、人生を踊るような激しいフラメンコを堪能し、翌朝次の街ロンダへと移った。

ロンダでのゆっくり過ぎ行く時間を楽しんだ。ついでに、主人と二人だけでコスタ・デル・ソルのマラベージャに行くことにした。パラドールのフロントが呼んでくれたタクシーの運転手は、若い無口な人だった。

メモを渡して、古い町、教会、ヨットハーバー、メッカを示す塔を見たいと伝えた。山道になると霧が視界を閉ざして、まるで牛乳の中みたい。前に行く車の赤いランプも一瞬消えたり、スリル満点を通り越し、思わずドアの把手を握る。ちらほら別荘のある辺りから、日が差してきて海の波も穏やかだ。まるで嘘みたい。

道路中央に立つ細いオレンジに輝く塔が目に入る。駐車できたのはずっと先で、2人でどんどん戻って撮影した。その後に立つ建物がロマンチックと目を凝らしたら、今はマクドナルドになっていた。

昼食後、青いタイルの丸屋根の教会を目指して、白い家並みの坂道を登って行く。タクシーを降りて、花の滴る家と教会、後陣もと、連写をして車に戻ると、細い道の先に違う教会があり、地元の人が案内してくれると言う。白い家々の間を数回曲がり、<あっちだよ>と言い残し、お礼も受け取らず、その地元の人には手を振っただけで行ってしまった。

そこは、車が入れない小さい広場で、花壇とトランペットリリーの白い花が市庁舎前に咲き、小さい鐘がある教会と、大きなタイル画のマリア様が外壁にはまっている教会が在った。祭壇の聖母子も花一杯で、ローソクがたくさん燈り、人々の信仰の厚さを感じた。私も一本のローソクを点け、知人の治癒を祈った。とても、ほっとする場所で、このままずっと居たいと思った。

また霧の道を通り、パラドールに着くと運転手が「楽しかったか」と聞いてきた。勿論、古い小さい町も可愛いけど、道を教えてくれた人々との触れ合いが、私には宝石よりも光り輝いて大切なものだと思う。



スペイン友好親善訪問の旅に参加して

千葉 博子

横浜スペイン交流協会という団体の存在も知らないで、誘われるがままに、一度は訪ねたかったスペイン旅行に参加しました。私としては、とても良い経験と旅をする事が出来ました。最初は協会の目的柄、観光を半ばあきらめていましたが、時間の許す限り、有効な観光が出来たと思っています。協会の事業の桜の植樹や、現地の民間人との交流も、そこに至る迄の関係者の方々の御苦勞のお蔭で、立派に行う事が出来た事を心よりお祝い申し上げます。私も及ばず乍ら少々の作業に参加出来た事を嬉しく思います。



ロンダの市長さんとは皆さん何か心も通じ合えた様で、良かったと思いました。又その様な所から横浜スペイン交流協会との友好の会が出来ると、もっと素敵だとも感じました。

下山会長御夫妻と協会役員の方々の、私共非会員に対してお心遣い戴いた事、又JTB岩佐さんの分かり易いガイドに心よりお礼申し上げます。

☆☆☆ さくらを訪ねて三千里 ☆☆☆☆☆

伴野 忠子

5年前にロンダ市に植えた桜を市役所でいただいた地図を見ながら、会長ご夫妻と、池本さんと、一緒にさせていただき半日くらい訪ねてまいりました。

はじめに訪ねた学校で偶然に遭遇しました。はじめの方は「ぼくはこの仕事について3ヶ月なので知りません」さらに進んで前からきた人に聞くと「ぼくが植えました」これにはビックリしました。植えてある場所は鍵のかかる中庭で、大切に育てられていました。

池本さんが1年2年3年4年と育ち方を調べ感激。みんなで記念写真を撮りました。枯れてしまった桜、花が咲いたと言う桜、ロータリーの中に植えてあって近付くこともできない桜、訪ねてまいりました。日本の桜が大切にされていることを知り、感慨ひとしおでした。



2月12日／ロンダ市にて。
1993年植樹のさくらを訪ねて回った。

右から3人目の人物が、「僕が植えました」と発言。
一同、偶然にビックリ。
(右から2人目が筆者)

☆☆☆ さくら植樹成功の影にいた人たち ☆☆☆☆☆

池本 三郎

1995年の第2回さくら植樹訪問に続き、私は今回もさくら育成指導のために、横浜市職員として参加させていただきました。セビリア市の植樹式会場である、パルケ・デ・ロス・プリンシペス公園に到着した際、責任者のアントニオ公園課長と再会しました。彼は私のことをよく憶えていて、とても印象的な笑顔で出迎えてくれました。

公園管理を主な仕事としている者同士なので、国を越えてもお互いに通じ合うものがあり、言葉の壁を越えてスムーズな意志の疎通が可能でした。アントニオ氏は、前回に引き続き今回も、植樹場所としてさくらに適したところを選んでくれました。

大きなプラタナスが夏の強い日差しを遮る池のほとりという、若木が育つ絶好の条件を整えてくれたのです。



セビリア市、パルケ・デ・ロス・プリンシペス公園
植樹式の終了直後、鉄製の柵囲いを設置して、さくらは大切に育てられている。



セビリア市、マリア・ルイサ公園
95年の第2回さくら植樹訪問の際、ガルシア助役が芽接ぎをされたさくら。

また植樹式の終了直後、鉄製の柵囲いを迅速に設置し、手際のよさを見せてくれました。

こうした心配りや手際のよさは、今回の植樹式だけに限られたものではなく、前回植樹したさくらたちの成長具合からも読み取れるものです。前回、ガルシア助役が自ら芽接ぎをされたさくらがきちんと活着したかどうか気がかりでしたが、それは杞憂に終わりました。立派に活着したさくらの苗木を観察して気づいたことは、芽接ぎのあと木口の芽欠き等の煩雑な手間を借しまずに大事に育ててくれたということです。こうしたスペインの人たちの長期にわたる管理育成があってこそ、記念植樹は成功したのだと実感させられました。

ザビエル・パンプローナ・

そして王子尚三氏と「さくら」と山口公園 【Vol. 2】

飯塚 劭

◇ 1986 年 6 月 2 日、王子尚三氏パンプローナへ

山口市がパンプローナ市と姉妹都市となつて 3 年目の 1983 年夏のこと。山口市では市民によるパンプローナ訪問団が結成され、親善旅行が実施された。

この旅行に王子さんも参加する。このとき王子さん 55 歳であった。訪問団が訪れた時、パンプローナ市はあたかもサン・フェルミンの祭りの真っ最中であった。この祭りを見学した後、訪問団一行はフランシスコ・ザビエルの生地を訪れた。

この地で王子さんは、ザビエル資料館に展示されていたザビエルがキリスト教を布教するために歩いたその足跡を示した地図を見て「全身に電流が走ったように感じた」という。

宗教のためとはいえ、これほどの苦勞をして東洋の各地を巡り歩いた勇気と、行動力に『感動した』のだった。そして、帰国するとすぐに、ザビエルに関する書籍を読み漁ったという。ザビエルのことを知れば知るほど、王子さんの心の中にザビエルの行動が大きな部分を占めるようになっていった。

パンプローナを訪れてから 3 年後、1986 年のこと。王子さんは奥さんの瞳さんともども、山口市の姉妹都市であるパンプローナ市に永住するため、日本を離れた。王子さんはスペインへの旅費や滞在費をつくるため、一代で築いた通信機器の会社を手放し、家屋敷をも売り払っていた。

「従業員も設備も、家も金も墓場まで持っていけるわけではない。人が死んで残るのは、生きていた時何をしたかということだけ。そんな時、ザビエルと出会った」王子さんはそう言った。

パンプローナに来て王子さんにはいろいろなことがあった。詐欺まがいのことに出会ったり、また言葉の壁があったりと、60 近い王子さん夫妻にとって外国での生活は大変な苦勞であった。

こんな王子さんに 1 人のスペイン人が救いの手を差し延べてくれた。コンスタンシオという名のタクシードライバーだった。彼のすすめで王子さん夫妻は彼が住んでいる町に引っ越した。パンプローナからバスで 30 ～ 40 分のところにある、タフエージャという小さな町である。

日本を出るとき、王子さんは地元のライオンズクラブで挨拶した。

「ザビエルの生地に、日本のさくらの木を植えたい」

王子さんのこの夢をかなえるべく、王子さんが旅立った後、山口のライオンズクラブでは 2 年がかりで計画を実行した。

そして 1988 年のこと、ソメイヨシノ 120 本がスペインに空輸された。今ザビエル城近くの地に、王子さんの手で植えられたこのさくらが根付き、毎年春には美しい花を咲かせている。



▲ ありし日の王子尚三氏と夫人。
自ら植えたハビエル城のさくらを前にして

◇ さくらの枝をください

朝倉さんはチャマルティン駅の公衆電話で、あわててタフアージャの王子さんに連絡した。私たちは日本を出発する前に王子さんから、チャマルティン発パンプローナ行きインターシティの出発時刻を知らされていた。それは、私たちがあのトーマス・クックで調べたのと同じ時刻になっていたからだ。

予定ではタフアージャから王子さんも乗り込んできて、パンプローナまで私たちと一緒にいくことになっている。ところが、出発が2時間もずれているのだ。このことを知らせておかなければ、私たちは王子さんと会えないことになる。

連絡は簡単にすんだ。スペインに住んですでに9年、王子さんはスペインの事情を充分に知っていた。

列車は遅れることなく、予定の時刻にタフアージャの駅にすべり込んだ。朝倉さんと朝倉さんの奥さんはともかく、私と私のかみさんそして鳥津さんの3人はこのときはじめて王子さんと出会った。

最初の印象は『何て柔和なやさしく、そして気遣いのある人だろう』ということであった。

私たち一行は、終点のパンプローナで列車を降りると、タクシーでこれも王子さんが手配しておいてくれたホテルへ直行した。

私たちの泊まったホテルはパンプローナの新市街で、ナバーラ大学にほど近いところにあった。そしてホテル前には大きな広場と空き地があった。王子さんの案内によるとこの広場はYAMAGUCHIといい、空き地にはYAMAGUCHIという名の日本庭園ができるのだという。これは山口市とパンプローナ市との姉妹都市の証として作られるとのことであった。

昨年(1997年)6月、ここにPARQUE YAMAGUCHIが完成し、日本式庭園が誕生した。この完成を祝って山口市より派遣された友好使節団のメンバーと地元の人々との交流イベントが行われた。しかし、そのイベントの現場に王子さんの姿はなかった。

癌に犯されていた王子さんには、出席するその体力が残されていなかったのだ。

ところで、翌日私たちはタクシーでザビエル城に向かった。ここで王子さんと待ち合わせをしたのだ。王子さん夫妻はこの日、タフアージャの自宅から、ここに来ていた。私たちは王子さんの植えた『さくら』の枝を数本貰うと、ふたたびタクシーに乗り、タフアージャの王子さんのお宅を訪問し、その日のうちにタフアージャからマドリッドに戻った。

チャマルティン駅に着くと、すぐさまプラサホテルに向かった。ここには下山会長を団長とする『さくら交流使節団』が宿泊し、さくらの専門家である池本三郎(現当協会理事)さんも宿泊している。ザビエルで採った王子さんのさくらの枝を、池本さんに渡し、植樹のための接木をしてもらわなければならない。

すでに夜の10時を過ぎていたが、スペインの夜はまだまだ宵の口だった。グランビアは人だにぎわっていた。



▲ 山口市が寄贈した、パンプローナ市の山口公園

◇ 悲しい知らせ

昨年の夏の終わりのこと。私の家の郵便ポストに、スペインから一通の手紙がとどいた。それは

は王子さんの奥さんからのものだった。

それにつづられていたものは「悲しいお知らせをしなければなりません」という言葉ではじまる、王子さんが亡くなったことの知らせであった。

横浜スペイン交流協会が植えたセビリアのさくら、コリア・デル・リオのさくら（このさくらは残念ながら、その後洪水で流れてしまったという）は、王子さんが植えたザビエルのさくらの兄弟ということができるだろう。

「国際交流の基本は草の根」タファージャのお宅に伺った時、王子さんはそう言っていた。それを象徴するかのように、王子さんとタファージャの町を歩いていると、角々で町の人々に声をかけられる。

ザビエルが日本人の心に何かを残したように、王子さんもタファージャの町の人々にきつと何かを残したに違いない。

少なくとも横浜スペイン交流協会にとってはセビリアにさくらを残し、そしてパンプローナには、『山口公園』が形あるものとしては残った。

また、朝倉さん夫妻、島津さん、そして私たち夫婦に外国人の中に溶け込むこととは、こういうことなのかという何かを残してくれた。

王子さんの遺体は遺言により、スペインの研究者に献体というかたちであずけられたという。王子さんのご冥福を深くお祈りする。

合掌



▲完成なった日本庭園の滝

☆ スペインサロン「ロルカの詩を楽しむ会」(98.1.10)に参加して ☆

北川 鈴子

私とガルシア・ロルカとの接点は非常に古く、米国留学時代に巡り合ったスペイン人の友達がきっかけであった。当時彼女はスペイン語を全く解しない私にロルカの詩の朗読を繰り返した。今でもその彼女のkastellanoの発声が聞こえてくる位、印象的で素晴らしかった。その時以来ロルカに対する熱い思いはずっと燃え続け、スペインに憧れ、フラメンコに愛着を持ち、グラナダにたどり着くことを夢見、やがてロルカの詩をそらんじる迄になった。

そのロルカ生誕百年記念行事の始めに、彼の詩を楽しむ会で小海永二先生から直接ロルカの解説を聞くことになろうとは夢の又夢。しかもスペイン語によるロルカの詩の朗読は庄巻でした。思い起こすに、私が小海先生のロルカ詩集を手にしたのは、25年程過去にさかのぼることでした。

ロルカはスペインそのもので、スペインの情熱と、ジプシーの哀愁と、人間生存と切っても切れない関係にある死を生涯歌い続ける事によって感受性豊かなロルカの才能は光り輝き、20世紀を魅了して来ました。



∞ ロルカ音楽会へのお誘い ∞

『柳 貞子 スペインの歌 ロルカに捧ぐーアンダルシア賛歌』

ピアノ：フェルナンド・トゥリーナ

当協会の顧問である柳 貞子さんによる、
ロルカの話と歌、彼に捧げるアンダルシアの歌。

日 時 4月3日(金)午後7時開演
場 所 津田ホール (JR千駄ヶ谷駅前)
料 金 5,000円(スペイン直送ロルカポスター付/全席自由)

チケット申込先 神原音楽事務所チケットセンター

∞ UN LIBRO ∞

『ドン・キホーテ賛歌』

「ドン・キホーテ讃歌」 セルバンテス生誕450周年
川成 洋 他編 四六判264頁 価格1,995円、送料300円

注文先 〒520-0016 大津市比叡平3-36-21
行路社出版事業部

今年、文豪セルバンテス生誕450周年を迎えるに当たり、あらためて人間セルバンテスおよびその作品との新たな出会い、創造的出会いに迫ってみた。本書は、セルバンテス、「ドン・キホーテ」と出会い、これに魅了された国内外30人の「セルバンチスタ」が発する、再発見、再評価への、熱い熱いメッセージである。

1998 年度総会開催のお知らせ

1998 年度総会は下記の要領で開催されます。多くの会員のご参加をお待ちしています。

今回の総会では、去る 2 月に行われた第 3 回スペインさくら植樹の報告をはじめ、1998 年度の事業計画などが議題です。

又、今回のさくら植樹でロンダ市から友好の記念として贈られた、「古代の剣」のレプリカと、セビリヤのエル・モンテ財団から贈られた市民交流ヨコハマデー開催にたいする「感謝プレート」を展示しますので、ぜひご覧ください。

総会の後、懇親会を開催し、会員相互の交流を図りたいと思います。

なお、会場の準備の都合もありますので、同封のハガキで 4 月末日までに、出欠をお知らせください。

記

①日時 1998 年 5 月 30 日（土）午後 6 時から

②会場 レストランガル（かながわ労働プラザ内）

横浜市中区寿町 1-4 電話 045-641-9952

最寄り駅は JR 根岸線石川町駅、
関内駅寄り出口から徒歩 5 分

③懇親会費 3,000 円（同封の振込用紙にてお支払い）

以 上

1998 年度会費納入のお願い

新年度の会費 3,000 円を同封の振り込み用紙により 4 月末日までにお支払いをお願いします。なお、1997 年度の会費未納の方は合わせて 6,000 円をお支払いください。

事務局の都合により、4 月末日までに会費をお支払いいただいた方々のみ 1998 年度総会にて配布する会員名簿に記載しますのでご了承ください。

事務局長 朝倉 薊

編集後記

前回の第 14 号では、紙質を変え写真も多くしましたら、読みやすくなったとのお声をたくさんいただきました。有り難うございました。

今回はスペイン特集ですが、個人的に行かれた方は訪問記等（写真含む）お待ちしております。

伴野 芳信

* 投稿寄稿宛先 〒221 横浜市中区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター内
神奈川県民活動サポートセンター
レターケース No.184 横浜スペイン交流協会会報係